一人ひとりの個性と向き合って

「やりたいことが浮かばない…。毎日ただなんとなく過ごしている。」
パステル利用当初にこんなことを話していたAさん。自分らしく、毎日の生活を過ごしていただくために、どのような支援が必要なのか。
今回はパステルを利用しているAさんとパステルの取り組みをご紹介します。

※パステル
平成24年4月に開所し、現在3年目を迎えるあすわ就労支援センター3つめの事業所。
主に発達障がいのある方を対象に、日中活動として、自立訓練（生活訓練）事業と就労継続支援B型事業を行っています。一人ひとりの個性や特性にあった支援（個別支援プログラム）を行っています。

何をして過ごせばいいのかわからない

パステルを利用する前は、ただなんとなく毎日を過ごす日々が続いていたAさん。最初の面談で「自分のアピールポイントとして粘土細工がある。過去に作っていたものがあるから見てほしい。それに、売れるようなクオリティがあるかどうかも見てほしい」という言葉がありました。

Aさんのアピールポイントを活かした、張り合いのある毎日を送っていただくためにはどうしたらよいだろうか。パステルでの活動について考えました。

活動を行う、個別スペース

私のアピールポイント

Aさんの活動内容を検討していく上で「アピールポイント」である粘土細工を中心に活動してみないかという提案をしました。Aさんはもともと、あまり人と接することを得意としておらず、集中できる環境づくりが必要であったため、まずは個別スペースを使用しての粘土細工作りを開始しました。

仕上がった作品はパーツ一つひとつが細かく、細部まで丁寧に仕上がっており、職員も驚くほどです。クオリティについては、Aさんに自信をもっていただくためにも作品を販売会に出品することを提案しました。実際の販売会ではお客様にも好評をいただき、現在でも販売会への出品を行っています。また議会食堂あすわにも、Aさんの販売スペースを設けています。

小さいパーツを組み合わせて
仕上げます

こうして始まったAさんの取り組み。わからないことや困ったことに対しては相談する時間を設け、職員も一緒に取り組んでいます。

家に閉じこもることが多かったAさんですが、こうしたアピールポイントを含めた活動を通して、週5日の利用で毎日パステルに通うことができています。

ストラップ（左）とクリップ（右）

これからの私

絵を描くことが得意なAさんは、イラストレーターにも興味をもっています。現在の粘土細工の活動に併せてデザイン関係の活動も織り交ぜながら、Aさんの自立に向けた取り組みを行っていきたいと考えています。

手ぬぐいに描いたデザイン画

パソコンで描いた作品

パステルの取り組み

パステルでは、利用者の方一人ひとりの思いや考え方、物事の捉え方を共有するためにも面談の時間を大切にしています。例えば「就職したい」という思いがある方には、就職に必要なスキルやマナーの習得を中心に。「通える場所が欲しい」という方には、相談しながら個室スペースの確保や、頑張りすぎない程度のペース配分など、継続して利用しやすい環境を整えていきます。どちらも目標は違ってみえますが、一つひとつ歩み具合を確認する必要性は変わりありません。皆さんの思いは各々ですが、個別に面談を重ね、着実に前に進むからこそ「力」がついてくるものだと思うからです。一人ひとりの個性と向き合って今後も利用者の方と共に歩んでいきたいと思います。

私は、足羽福祉会に入職後パステルに配属となり、今年三年目になります。この二年で、発達障がいについてはもちろんですが、診断名に捉われずにかかわることの大切さも学びました。その中で、皆さんの得意、不得意なこと等が見えてくるようになり、新しい気づきが、うれしく感じます。これからも利用者の方と過ごす時間を大切にし、利用者の方と共に目標に向かって取り組んでいきたいと思います。

生活支援員　吉村　麻美

こんな活動もしています

パステルでは、月に1～2回、土曜日（午前中のみ）にも活動しています。土曜日の活動は全体活動であり、マナー講座や調理活動、礼法、外出といった幅広い活動内容で、主に利用者の方が中心となって内容を決めます。

この日は調理活動

当日の計画や役割もみなさんで決めます

みんなで協力して…

クッキーとマドレーヌのできあがり